



## 東京湾再生官民連携フォーラム 令和5年度 第1回企画運営委員会 議事メモ

1. 開催日時 令和5年5月31日(水) 13:30-15:00
2. 開催場所 財団法人みなと総合研究財団 3階会議室  
(東京都港区虎ノ門3-1-10 3F) web参加者も含むハイブリッド開催
3. 議事次第

### 《審議事項》

- (1) フォーラム令和4年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について
- (2) 東京湾大感謝祭2023開催(案)について

### 《報告事項》

- (1) PT活動報告
- (2) 「生物多様性のための30by30アライアンス」参加登録報告
- (3) 東京湾等の再生に向けた新たなマッチングイベント開催に向けたCSR-NPO未来交流会  
(感謝祭2023マッチング編)について
- (4) 広報:東京湾の日、第3回川柳&photoコンテスト募集について

### 4. 出席者 (敬称略)

來生議長、佐々木委員※、中村委員、岡田委員※、古川委員※、山口委員※、松井委員※、  
工藤委員、田久保委員※、芝原委員※、山縣委員※、服部代理、中沢代理、木村委員※、  
渡邊代理、針谷代理※、和田委員※、朝倉代理※、米沢代理、加藤委員※、二宮委員※、  
内田代理※、市川委員※、板戸委員※、細川(事務局)  
25名出席 (このうち※印がZoomにて参加)

### 5. 議事概要

#### 5-1 開会

- (1) (事務局): 出欠および資料の確認  
出席者名簿、議事次第を含めた配布資料の確認。
- (2) (來生議長); 開会

#### 5-2 審議

### 《審議事項》

- (1) フォーラム令和4年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果について

**【決定事項】**

(1)フォーラム令和4年度事業報告(案)、決算(案)及び監査結果は承認された。

(事務局): 審議資料1に基づき説明

資料の構成は、最初に主な実施項目10項目をあげ、次いで各項目について説明している。令和4年度は東京湾再生のための行動計画(第二期)の最終年度にあたる。フォーラムは第三期にむけた政策提案を行い、官側との意見交換を行った。また、フォーラムでは、第二期の10年分の活動のまとめを行った。

1.セブン-イレブン記念財団と令和4年度からの3年間の基本協定を結ぶことができた。

2.第三期にむけての活動で、R3年度に政策提案を行い官側との意見交換等を行った。フォーラム内部では、各プロジェクトチームの活動について振り返りを行い、これを機会に、PT終了・継続の判断を行った。結果、4つのPTがミッション終了となった。

東京湾大感謝祭PTは、反省と実績の振り返りを行い一区切りつけた。浅瀬再生実験PTは、活動のタイミングが合わず、今は停止することで終了とした。東京湾パブリック・アクセス方策検討PTは、政策提案を二度実施し、役割を果たし終了。東京湾での海水浴復活の方策検討PTも政策提案を行い、もっと幅広い視点で東京湾のふるさとの回復を考えていくということで、PTは終了とした。

この10年間の活動をまとめた冊子を作成した。セブンイレブン記念財団の助成金と企業の広告を募り300部の印刷をおこなった。配布先は著者、関係者、企画運営委員のみなさま、冊子編集に助言をいただいたみなさまに優先配布している。さらに、今後の展開も考えながら、各自治体、各首長、海に関係する国会議員の方々に配布を考えている。その後各会員への配布となる。

3. 交流・連携事業を実施した。令和4年度CSR-NPO未来交流会は、コロナの影響により、対面では難しい中、「第三期の行動計画について」、「30by30の生物多様性の紹介について」、「カーボン・ニュートラルに関連するブルーインフラ拡大について」講演をいただき、さらに「企業、市民の参加事例の紹介」をいただいた。概ね講義形式であるが交流会として実施することができた。

3.2、10月1日東京湾の日の記念で「川柳&photoコンテスト」を引き続き実施した。こども向けの枠として、キッズ大賞をつくり募集を行った。たいへん沢山の方からの応募が寄せられた。

東京湾大感謝祭の応援、そして外部への後援等を実施した。また、一般財団法人セブン-イレブン記念財団主催のウェブセミナー、経団連自然保護協議会主催のシンポジウム及び交流会に参加した。

会議体の実施説明になる。企画運営委員会を3回開催した。第3回企画運営委員会では、「広報コミュニケーションチーム、東京湾再生・感謝祭デザインチーム」の2つのチームを立ち上げ、第三期にむけてPTの新設(指標PT)、などの議論を行い、承認された。

5.の通常総会では、東京湾再生推進会議幹事 海上保安庁から、「第二期のプレ評価、第



三期にむけての骨子」などを直接説明していただいた。PT活動報告、川柳&photo コンテスト受賞者の表彰などを実施した。また議長より、10年目を区切りとした挨拶が行われ、内容を記載している

各プロジェクトチームの活動を記録している。10年目を機会に各PTにおいても活動に対する深まり、拡がりが見えたと思う。令和4年度の東京湾大感謝祭では6,572名の来場者があり、10/15, 16の二日間、横浜港大さん橋ホール、その周辺で開催した。ご協力の皆様、共催いただいた団体に御礼申し上げる。

後援、協力活動の実施を紹介している。29pは会員に向けたニュースレターの実績、p32会員の状況となる。33pは、東京湾外に向けた東京湾での活動紹介を記載している。各PT長がさまざまな場面で、東京湾の活動の紹介を行ってくれている。以上が活動報告となる。

活動に伴う収支について説明する。

令和4年度の決算は、セブン-イレブン記念財団の助成金3,999,947円、寄付金・雑収入が、315,000円ある。繰越金の33,356円と合わせて全収入となる。セブン-イレブン記念財団の助成金の収支を、独立して整理している。助成金会計支出は、事務局維持のための経費、と事務局独自に行う事業費とから構成されている。合計3,999,947円になる。記念財団の会計処理ルールに従い、戻し金が生じている。

助成に該当していない費目は別途の寄付金収入等で充当している。助成金含めてR4年度は、1万円強が黒字になっている。次が貸借対照表で3/31現在の資産、負債、正味財産を示している。以上が決算となる。監事の大浦様、風呂田様に、5/23監査していただき監査報告をいただいている。同時に監事より監査時に指摘事項を受けた。

#### 【審議経過】

來生議長：

令和4年度事業報告、決算、監事監査等について質問、ご意見を願います。  
特に質問がないようなので、承認とする。

#### 《審議事項》

(2)東京湾大感謝祭2023開催(案)について

#### 【決定事項】

(2)東京湾大感謝祭2023開催(案)については、承認された。

山縣委員(感謝祭デザインチーム長)：審議資料2について説明。

今年の大感謝祭の実行体制は、わたくし山縣が実行委員長、東京湾フェリーの寺元さんに副委員長、そして細川さんが事務局長とし、昨年度の実行委員、スタッフを加えて、「東京湾大感謝祭2023」を企画運営していく。10月14(土)、15日(日)、横浜市市役所アトリウムを開催会場として実施する。横浜港大さん橋ホールと比べると狭いが、立地的、イベント会場に相応しい



良い場所となっている。現在、感謝祭の内容等詰めている段階で、予算は1000万強ぐらいを見込んでいる。会計ルールをしっかり作り、運営していきたい。

大感謝祭のミッションは、東京湾再生行動計画(第三期)に合わせて、「流域3千万人の心を豊かにする東京湾の創出」とあるように、海域を含めての環境意識、東京湾への理解の向上を図る場として、「感謝祭が機能し、フィードになれば」という想いで進めていく。官民学、とりわけ、東京湾全域の地方自治体に参加していただき、色々な活動が横糸で結べるような活動を行いたい。

感謝祭実行委員会は月1回のペースで行い、内容を詰めていく。また10月を感謝祭月間として、東京湾でさまざまに行われるイベントと連携していきたい。皆様のご支援ご協力をお願いする。詳細については事務局から説明する。

細川 感謝祭事務局長:審議資料2-1~2-4について説明。

予算規模、会計ルール、実施体制、メンバーについて説明し、承認をお願いしたい。

メンバー表については、現在、官民の約50名程度の実行委員会メンバーを予定し関与いただいている、その中で、☆印がコアメンバーとし、実行委員会の中で、中心的に分担をもって活動としている。さらに若い方の参加を促す工夫を行い、メンバーになってもらいたい。

収支計画については、今後の作業の中で変更があるかと思うが、大きく見ていただくため作成している。収入の部では、出展料、プログラム広告、協賛、助成金などを予定して、約1,200万円。支出は、出展のサポート支援作業、設営費、講演等の謝金や清掃等で約1,200万円を計上している。

お金を扱う上において透明性のある運用ルールを審議資料2-3、2-4において提示した。

資料2-3については、基金をつくり運用するルールをフォーラムの設置要綱で定めている。基金は将来的には、広報・普及だけではなく、フォーラム全体の活動に該当させるべきという前回企画運営委員の意見もあり、ルール化の資料2-4、2-5を作成した。資料2-4で、基金の最終的な責任は企画運営委員会の委員長にあることにした。通常の会計と基金とは分けて運用するが、場合によっては、相互運用の議論も予測できるので、企画運営委員会の中で議論を行い委員長が責任を持つという制度にしている。

資料2-5は、透明性を高めるため金額が大きい支出に対しては、チーム長の承認、支出メモの記載、通帳の管理者の特定、収支の記録ファイルの作成、通帳管理者の報告業務など、実務ルールを記載している。実務ルールは運用の中で修正しながら適用し、チーム長が運用責任を持つようにしている。

#### 【審議経過】

來生議長:

質問、ご意見を願います。

千葉市役所 内田代理:

感謝祭デザインチームと東京湾大感謝祭実行委員の関係性について説明して欲しい。



細川感謝祭事務局長：

メンバー表の中の☆印がついている方々の集合体が感謝祭デザインチームに該当する。方針議論を含めてデザインチームで議論し、実行に当たっては、拡大した実行委員会が担当する。

來生議長：

他にご意見質問等、なければ、承認とする。

実行委員長 山縣様・副委員長寺元様には、ご苦勞をおかけするが、何卒よろしく願います。続いて報告事項に移る。

## 《報告事項》

來生議長：PT 活動報告をお願いします。

### (1)PT活動報告

#### モニタリングPT（古川 PT 長） 報告資料 1-1

令和4年度PTは、東京湾環境一斉調査への参加とフォローアップの実施を行っている。一斉調査では、水質調査、生物調査、イベント関係、東京湾すべての調査ができた。打ち合わせの段階から広報、ワークショップの開催など東京湾再生推進会議モニタリング分科会との連携事業を進めている。国総研の支援で、Vol.17の東京湾環境マップの作成している。マップでも取り上げたが、連続ワークショップ「江戸前勉強会」を開催し、東京湾の現状、今後の東京湾のあるべき姿等検討・議論を行った。

また、「アサリわくわく調査」では、千葉県から特別採捕許可のため東京湾の環境をよくする会と連携して対応した。三番瀬での調査に関して特採許可を頂き実施した。

本年度については、同様の会合、東京湾環境一斉調査を予定しているが、ここ数年、生物調査実施を進める検討してきたが、生物の同定については、高度な専門知識が必要なため、市民調査の方法が難しいので、浦安水辺の会に風呂田先生が同行していただき、どんな形でできるのか検討するとともに、9月には、おせっ会・東京湾窓PTのプロジェクトと連携しての調査研修会を予定している。また指標(第三期)PTとモニタリングPTでできるところは、連携して進めていく。特に、東京湾の指標をレポートカードのような形式で公表していく準備を行っている。

11月には、方法論について、国際研究のCOAST Cardを検討している国際ワークショップも実施(11/19-21)開催されるので、連動しての実施を予定している。今年度も既に特別採捕の申請を東京湾の環境をよくする会等の支援をいただき継続実施していく。改めて協力を御礼申し上げます。

#### 生き物生息場づくりPT(佐々木 PT 長) 報告資料 1-2

令和5年度の活動報告をおこなう。



4月16日に既に実施しているが、習志野の海を守る会のご協力を得て、茜浜の見学会をおこなった。見学会に先立ち、新習志野公民館において、佐々木 PT 長より政策提案の「マコガレイ産卵場の底質改善について」講演した。地元では、本活動があまり知られていないとのことで、貴重な広報の機会となった。その後、ゴミ回収活動を行いながら変化に富む習志野市の海岸を視察した。

令和5年度の計画については、決定事項として、7月3日(予備日4日)に再生目標生物WGのご協力を得て、養老川河口干潟のPT見学会を実施予定にしている。夏にはPT会議と見学会をセットにした合宿を5年ぶりに開催したいと計画検討にしている。(前回は2018年6月28日、29日富津海岸のアマモ場見学会を実施した)。

12月には、恒例のマコガレイ産卵場調査、3月にはマコガレイ釣り調査を実施予定である。

昨年度から千葉県水産総合研究センターからの政策提案に向けて「千葉県沿岸の直立護岸沿いにおける小規模な浅場マウンドの造成に関する提案」を今年度も継続して検討する予定にしている。

また、この件を含め、東京湾環境再生に資する話題提供や勉強会についても企画していきたいと考えている。東京湾大感謝祭については、PTとしてはできることを行っていきたい。

令和5年度から東京湾再生のための行動計画第三期が始まったことを機に、これまで実施してきたことを継続しつつ、例えば、新しくメンバー募集などを含めて、新たなことも考えていきたい。

#### **指標PT (岡田 PT 長) 報告資料 1-3**

PTをリニューアルして「東京湾再生のための行動計画(第三期)の指標検討PT(略:指標PT)」を立ち上げた。3月8日から3月22日間メンバー募集実施を行い、結果、大学・研究機関:4名、市民・NPO:4名、民間:5名、公官庁:13名現在、26名により活動を行っている。

活動としては、「第三期の指標の提案に向けた検討」を開始している。9月30日の総会において政策提案をすることを目指している。資料の活動実績計画に記載しているように2週間に1回のペースで、急ピッチで検討を行っている。サブゴールを8月の下旬と定め、PT内できりまとめを行う予定にしている。その結果をフォーラムでの意見照会をかけ、9月30日の総会に提案したい。

#### **江戸前ブランド育成PT(牧野 PT 長/事務局代理報告) 報告資料 1-4**

活動方針として、「まず、食べていただく」、各家庭の食卓と東京湾のつながりの促進し、江戸前水産物を知り、体験していただくイベントを各地で実施することで、江戸前の認識を広めていく。コロナも落ち着き PT メンバーの活動も再会している。例えば、江戸前漁師を元気にする会などは、市川市で常設販売場所があったりするなど、また活発に活動するようになってきた。

今後も PT メンバーの活動は引き続き継続する。これまでの蓄積してきたオンライン資料を江戸前 PT デジタル資料館などの形で公開し、他 PT にも活用できるように検討していく。

東京湾大感謝祭では、「江戸前の恵み」コーナーとステージイベント等を計画していきたい。長期的には、食育、人材育成、他 PT との横断的連携協力の検討を図っていく。



### 東京湾の窓PT（芝原 PT 長） 報告資料 1-5

令和5年度の活動計画については、東京湾再生行動計画(第三期)に合わせた PT 活動方針の検討を月1回程度の介護を行っていく。中でも、東京湾スタンプラリーの実施を今後どのようにしていくのか、自治体連携などの検討を行っていく。Facebook グループページ「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」運営については継続して実施していく。

東京湾大感謝祭については、継続して出展することを考えている。普及啓発、教育活動に関しては、東京湾再生行動計画、フォーラム活動の中でも東京湾の活用といたった中で、東京湾窓PTとの関りを強めていけるようにしていきたいので、今年度はこの10年先に向けての活動を検討していく。

報告になるが、A5判/144 ページ、2023年4月5日、朝倉書店 刊行により、『シリーズく水辺に暮らす SDGs』日本湿地学会監修、第2巻『水辺を活かす』において、東京湾再生官民連携フォーラム・東京湾の窓 PT の取組み事例の紹介が掲載されている。

### 多摩川河口干潟ワイズユースPT（竹山 PT 長/事務局代理報告） 報告資料 1-6

事務局から報告するが、PT 長よりメモをいただいている。

メモは、「R4 年度は PT 立上げの初年度ということで、メンバー募集や多摩川河口干潟で活動している関係者との意見交換などをおこないました。また、多摩川河口生物多様性研究会メンバーを主体として、調査は以前より多摩川河口干潟の東京側で活動を実施している団体や、川崎側で活動している団体にも声をかけ、秋季調査、春季調査を実施しました。

R5 年度の活動としては、6 月に出水期前の初夏調査、秋季、冬季、春季と四季を通じた調査を実施予定です。また 7 月～8 月に R4 年度の調査成果について、PT 内で成果報告会を実施したいと考えています。今年度の目標としては、調査だけではなく、観察会を視野に活動を計画する予定です。」

來生議長：

各 PT 活動の報告一通り終わったが、各 PT からの報告があったように第三期の行動計画開始の年でもあり、コロナ規制も緩和され、環境も変化してきた。各 PT も新しい環境に対応して活躍していただきたいと思う。ご意見、質問等あれば願います。

特にないようなので、次に、「生物多様性のための 30by30 アライアンス」参加登録報告を事務局から願います。

### (2)「生物多様性のための 30by30 アライアンス」参加登録報告(事務局) 報告資料 2

環境省の 30by30 については、CSR-NPO 未来交流会において、環境省のご担当から講演等をいただき、フォーラムとしての捉え方等の検討を行ってきた。登録するのに必要な条件や分野区分を検討し、無理のない形で参加登録が可能なので申請をおこなった。スムーズに登録が行われた。



**(3) 東京湾等の再生に向けた新たなマッチングイベント開催に向けた CSR-NPO 未来交流会(感謝祭 2023 マッチング編)について(事務局) 報告資料 3**

令和5年度は、CSR-NPO 未来交流会を大感謝祭の中で、2023 うみマッチングという名称で、行うことを考えている。企業と市民団体とのマッチングをカーボン・ニュートラルを一つのテーマにして、大感謝祭の一つのイベントとして企画検討していきたい。

**(4) 広報:東京湾の日、第3回川柳&photo コンテスト募集について(事務局) 報告資料(4)**

10月1日東京湾の日にかけて今年も第3回川柳&photo コンテストを実施する。実施の仕方については昨年度と同様に、川柳の審査委員長に稲田様、3段階の審査、二次審査では企画運営委員のみなさまに選考参加いただき実施していきたい。Photo 審査は、委員長・舵社 編集長 田久保様をお願いし、企画運営委員 木村様、関東地方整備局 岡島様に引き続きお願いし、審査していただく。広報ツールとして、東京湾の日ポスター、応募チラシを用意している。機会があれば、周辺の皆様方にコンテストへの応募を勧めていただければと思う。

來生議長:

以上で本日予定していた審議事項、報告事項の議事は終了するが、全体を通して、ご発言があれば受け付けするのでお願いします。

事務局:

昨年度10年の記録として冊子を刊行し、みなさま方にも配布しているが、有効に使いたいと思っている。読んだ感想を事務局までお寄せいただけるとありがたい。使い方や配布先について、ご要望を教えてくださいと思っています。

來生議長:

計画通り冊子を刊行できた。フォーラムの活動を社会に認識いただくツールとして、良くできている。事務局に何かご要望等あればお願いします。

令和5年度第1回企画運営委員会はこれで終了する。

「どうもありがとうございます。今後ともよろしくおねがいます。」

5-3 閉会